

2021年6月10日

各 位

当社初となる豪州太陽光発電事業への参画について

当社（社長：大田 勝幸）は、豪州クィーンズランド州において大規模太陽光発電事業（以下「本事業」）に参画しますのでお知らせいたします。双日株式会社（代表取締役社長CEO：藤本 昌義）との合弁会社である Sapphire Energy Pty Ltd を通じ、本事業の事業会社である Edenvale Solar Park Pty Ltd の株式を DPI Solar 3 Pte Ltd（本社シンガポール、CEO：金當 一臣、以下「DPI」）より完全買収し、2021年6月から建設を開始いたしました。

本事業は、DPI および現在開発中の台湾洋上風力発電事業のパートナーでもある双日とともに2019年から開発を進めてきた、当社初の豪州における太陽光発電所開発案件となります。発電容量は、当社が手掛ける太陽光発電所としては最大となる204MW（当社出資見合い持ち分容量102MW）です。発電した電力のうち70%は現地の電力小売会社に固定電力価格で販売する予定です。

事業用地は、同国クィーンズランド州の州都であるブリスベンから西方約300kmに位置し、年間を通して日射量が豊富です。同州政府は2050年ゼロエミッションターゲットを掲げており、今後も再生可能エネルギーの更なる拡大が見込まれています。

ENEOSグループは、2040年長期ビジョンにおいて、自社排出分のカーボンニュートラルの実現を掲げています。その実現に向けた取り組みの一環として、当社は2022年度までに、国内外において再生可能エネルギー事業の総発電容量を約100万kW以上に拡大することを目指しており、本事業はその目標達成に資するものです。

また、当社は豪州においてCO2フリー水素サプライチェーン構築に向けた取り組みを行っております。本サプライチェーン構築に向け、今後も、同国における再生可能エネルギー開発に関する知見を蓄積してまいります。

当社は、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の目標7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、目標11「住み続けられるまちづくりを」および目標13「気候変動に具体的な対策を」につながる再生可能エネルギーを始めとする環境配慮型エネルギーの供給を積極的に推進し、低炭素・循環型社会の実現に貢献してまいります。

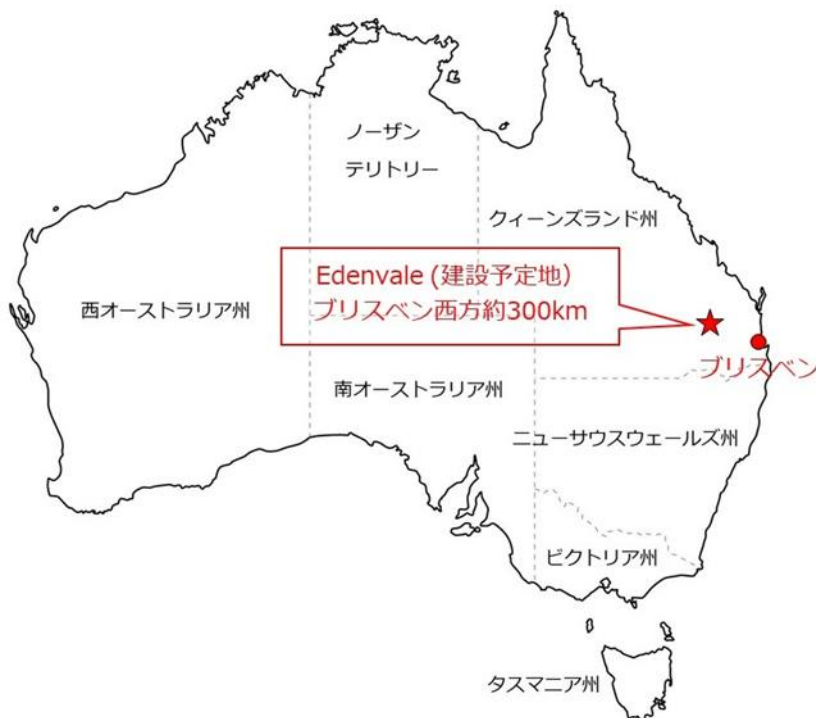
<当社戦略（再生可能エネルギー事業の拡大）と国連「SDGs（持続可能な開発目標）」との関わり>



<太陽光発電所の概要>

事業会社	Edenvale Solar Park Pty Ltd
発電所所在地	豪州クィーンズランド州
敷地面積	約428ヘクタール（約4.3km ² ）
出資会社	Sapphire Energy Pty Ltd （双日・当社※50%JV） ※ENEOS Australia（当社100%出資）を通じた出資
ファイナンス契約先	Natixis（本社フランス）
EPC契約先	Gransolar Construction Australia Pty Ltd （本社スペイン）
総発電容量 （当社出資見合い持ち分容量）	204MW （102MW）
運転開始	2022年度後半予定

<建設予定地>



以上